事務事業評価シート（平成21年度）　（施設の維持管理）

（A面）

担当課	課長名	記入者
教育総務 課	萬浪佳隆	徳平みゆき

1　事務事業の概要　＜Plan①＞

事務事業名	新規・継続		事業開始年度		完了予定年度	
図書館施設管理事業		新規	15 年度		年度	
	○	継続		H20以前	○	未定

事務事業の体系

計画掲載					
多可町総合計画	（章）	2 笑顔でつつむ、あったかいまち	（節）	2 学ぼう、活かそう	
	（基本計画）	生涯学習を推進する			
個別計画					

根拠法令・条例・要綱等	事業区分（該当する区分に「○」）			
多可町図書館条例		ソフト事業	○	施設の維持管理
		義務的事業		内部管理事務
事務事業の具体的内容		建設・整備事業		計画などの策定

図書館を安全に利用していただくため、適切な施設管理を行う。	補助金の支給		有	○	無
	委託		全部委託	○	一部委託
			委託なし(全部直営)		

2　事務事業の目的　＜Plan②＞

対象（働きかける相手・誰が・もの）	受益者（誰を・何を）	意図（どういう状態にしたいのか）
図書館	住民	点検等を行い、適切に管理する

3　事務事業にかかる予算細目　＜Plan③＞

会計名	一般 会計

細目名	図書館運営事業				細目名					細目名				
予算コード	款	項	目	大事業	予算コード	款	項	目	大事業	予算コード	款	項	目	大事業
	10	5	3	1										

4　事務事業実施にかかるコスト　＜Do①＞

事務事業・人員			単位	20年度 決算	21年度 実績	22 年度 計画	備考（全体事業費など）
総コスト			千円	2,790	3,727	3,337	
コストの内訳	直接事業費		千円	1,078	1,947	1,620	
	所属内間接費		千円	68	65	67	
	人件費		千円	1,644	1,715	1,650	
	投入人員	正職員	人/年	0.20	0.20	0.25	
		嘱託員	人/年				
財源内訳	国・県支出金		千円				
	地方債		千円				
	その他特定財源		千円				
	一般財源		千円	2,790	3,727	3,337	

5　事務事業の手段＜Plan④＞と活動指標　＜Do②＞

事務事業を構成する業務		手段（事務事業整理シートより）	活動指標（手段の数値化）	単位	20年度実績	21年度実績	22年度目標
1	館内清掃業務	業者委託により	清掃回数(開館日数)	回	260	258	256
2	夜間警備業務		警備日数	日	365	365	365
3	電気保安業務		点検回数	回	12	12	12
4	消防設備保守点検業務		点検回数	回	1	1	1
5	敷地の草刈り業務	社協と交代で職員により	草刈り回数	回	5	5	5

（施設の維持管理（B面）

事務事業名 [図書館施設管理事業]

6 事務事業の実績 ＜Do③＞

成果指標(意図の数値化)	単位	20年度実績	21年度実績	22 年度目標	備考（成果指標の考え方・計算方法）
貸出者数	人	32,185	32,914	34,600	
貸出冊数	冊	165,657	171,755	180,000	

7 事務事業の事後評価 ＜Check＞ （施設の維持管理事業）

チェック項目			該当項目に「○」						担当の把握している課題
必要性	需要への対応性	受益者(利用者)の割合は		高い	○	高くない		把握なし	施設が老朽化しており、適切な管理が必要である。生涯学習関係施設との統合は可能である。
		利用者・対象者数は	○	増加		減少		横ばい	
妥当性	連携の可能性	他の施設と連携・統合できる可能性は		ない	○	ある		あるが困難	
		民間や他の行政機関と連携できる可能性は		ない	○	ある		あるが困難	
		市民団体・ボランティアなどと協働できる余地は		ない	○	ある		あるが困難	
効率性	手段・プロセスの効率性	事務事業を構成する業務に見直しの余地は		ない	○	ある	委託できるところは委託しているが、長期契約等での経費削減は見込める。全体の職員数が減るなかで、将来は臨時(パート)職員採用で、業務量に応じたフレキシブルな対応が考えられる。		
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は		ない	○	ある			
		業者選定や契約方法の変更によるｺｽﾄ削減の余地は		ない	○	ある			
有効性	持続の可能性	継続することによる効果は	○	高い		高くない	図書館法により利用料は徴収できない。住民生活の動線上にない。		
		歳入確保を検討する余地は		ある	○	ない			
		環境に配慮されて		いる	○	いない			

市場化の可能性				
		更なる委託化の余地あり	○	更なる委託化は不可能
		指定管理者制度を検討する余地あり	○	指定管理者制度を検討する余地はない

改善の可能性				
		1.改善の余地はない	○	2.改善の余地がややある
		3.改善の余地が多い		4.抜本的な見直しが必要

事務事業評価書

８　改善提案と今後の改善の方向性　＜Action＞図書館施設管理事業

職場からの意見（担当者）
（課題の解決についての提案など） 施設が老朽化しており適切な管理が必要であるが、維持管理費がかさんできている。

担当課長評価
（課長としてこの事業をどのようにしていきたいか）
図書館としては狭く、利用者の読書スペース、視聴覚コーナー、乳幼児が本に親しめるコーナー等も不充分である。また、施設も老朽化しているため改修を行い、住民サービスに繋げたい。 将来的には住民生活の動線上、もしくは都市計画上の文教地区に生涯学習施設として複合施設化が望まれる。

所管評価		1. 重点的に継続		2. 現状のまま継続	○	3.内容を見直しながら継続		4. 縮小を検討	
		5. 統合・連携を検討		6. 休止・廃止を検討		7.終了・完了	内部評価		3

教育長評価
（教育長としてこの事業をどのようにしていきたいか） よりよい図書館を目指して業務を進めていくとともに、今後の図書館のあり方なども十分協議していきたい。

事業評価		1. 重点的に継続		2. 現状のまま継続	○	3.内容を見直しながら継続		4. 縮小を検討
		5. 統合・連携を検討		6. 休止・廃止を検討		7.終了・完了		

評価委員コメント
今後は現状を維持しつつ、より一層の業務改革を要する。